

令和 7 年度

富山県公共事業再評価事業

重点審査対象分 資料

令和 7 年 7 月 2 5 日

富山県

様式2

令和7年度富山県公共事業再評価調書

整理番号		事業名		路線名・河川名等			事業箇所		
9		道路橋りょう改築費		イッパンコクドウ一般国道415号ゴウシンショウガワバシ新庄川橋			イミズシショウセイマチショウガワホンマチ射水市庄西町～庄川本町		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費(百万円)	前年度まで事業費(百万円)	R7事業費(百万円)	残事業費(百万円)	進捗率
R1	精査中 (着手時:R20)	7年	精査中	再	精査中 (着手時:14,000)	426	50	精査中	精査中

全体計画

道路改良(橋梁架替)
延長 L=1,100m(道路改良:L=700m、橋梁架替:L=400m)
幅員 道路改良区間:W=14.5m、橋梁架替区間:W=18.06m
※設計中であり、変更となる可能性がある。

事業費の単位は百万円、下段()書きは前回再評価時の数値である

事業概要の説明

当路線は、石川県羽咋市を起点とし、高岡市、射水市など県西部の湾岸部の主要都市を経て、富山市を終点とする延長約68kmの幹線道路で、第2次緊急輸送道路にも指定されている重要な道路である。
新庄川橋は、昭和13年に建設された旧橋(上流側)と昭和48年に建設された新橋(下流側)の2橋で構成されており、特に建設から87年が経過した旧橋は老朽化が著しい。
また、庄川水系河川整備計画には、2m程度の堤防の嵩上げと、これに伴う新庄川橋(旧橋)および隣接する万葉線橋梁の架け替え等が位置付けられている。
新庄川橋(旧橋、新橋)と万葉線橋梁を一体的に架け替えることにより、災害に強く安全な道路交通を確保するとともに、治水安全度の向上を図る。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
射水市人口 ※射水市HP	人	92,884 (H31.4)	88,180 (R7.4)	5.1%減少 (△4,704)
交通量(一般国道415号 新庄川橋) ※道路交通センサス	台/日	12,269 (H27)	11,066 (R3)	9.8%減少 (△1,203)
万葉線輸送人員	人/年	1,135,583 (H31)	1,089,688 (R6)	4.0%減少 (△45,895)

自己評価内容	評価結果
・事業着手時に比べ、射水市の人口は減少している。 ・当該路線の交通量は減少しているが、1万台/日を超える交通量があり、災害に強く安全な道路交通を確保するため早期整備が必要である。 ・万葉線の輸送人員は減少しているが、年間100万人を超える利用があり、公共交通の維持のため一体的な整備が必要である。	事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

数値化が困難な事業効果
・橋梁の劣化の進行や、大規模地震により橋が損傷し、通行止めとなった場合の社会的損失を防ぐことができる。 ・洪水を安全に流下させる上でのボトルネック箇所が解消される。 ・道路の幅員が拡がることにより、自転車利用者の安全性が向上する。

自己評価内容	評価結果
・老朽化が進行する橋梁の架け替えにより、耐震性も確保され、災害に強い道路ネットワークが形成されることから、事業投資効果は大きい。 ・橋梁の架け替えにより、洪水を安全に流下させる上でのボトルネック箇所が解消されることから、事業の投資効果は大きい。	事業継続が妥当

3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和7年度まで整備済		未整備内容		令和7年度までの進捗率 (%)	
主な工種(単位)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	事業量ベース	事業費ベース
橋梁工(m)	400	精査中	0	0	400	精査中	0.0%	精査中
道路改良工(m)	700	精査中	0	0	700	精査中	0.0%	精査中
旧橋撤去	1式	精査中	0	0	1式	精査中	0.0%	精査中
用地補償	1式	精査中	0	0	1式	精査中	0.0%	精査中
調査設計	—	精査中	—	476	—	精査中	精査中	精査中
合計	1,100	精査中	0	476	1,100	精査中	精査中	精査中

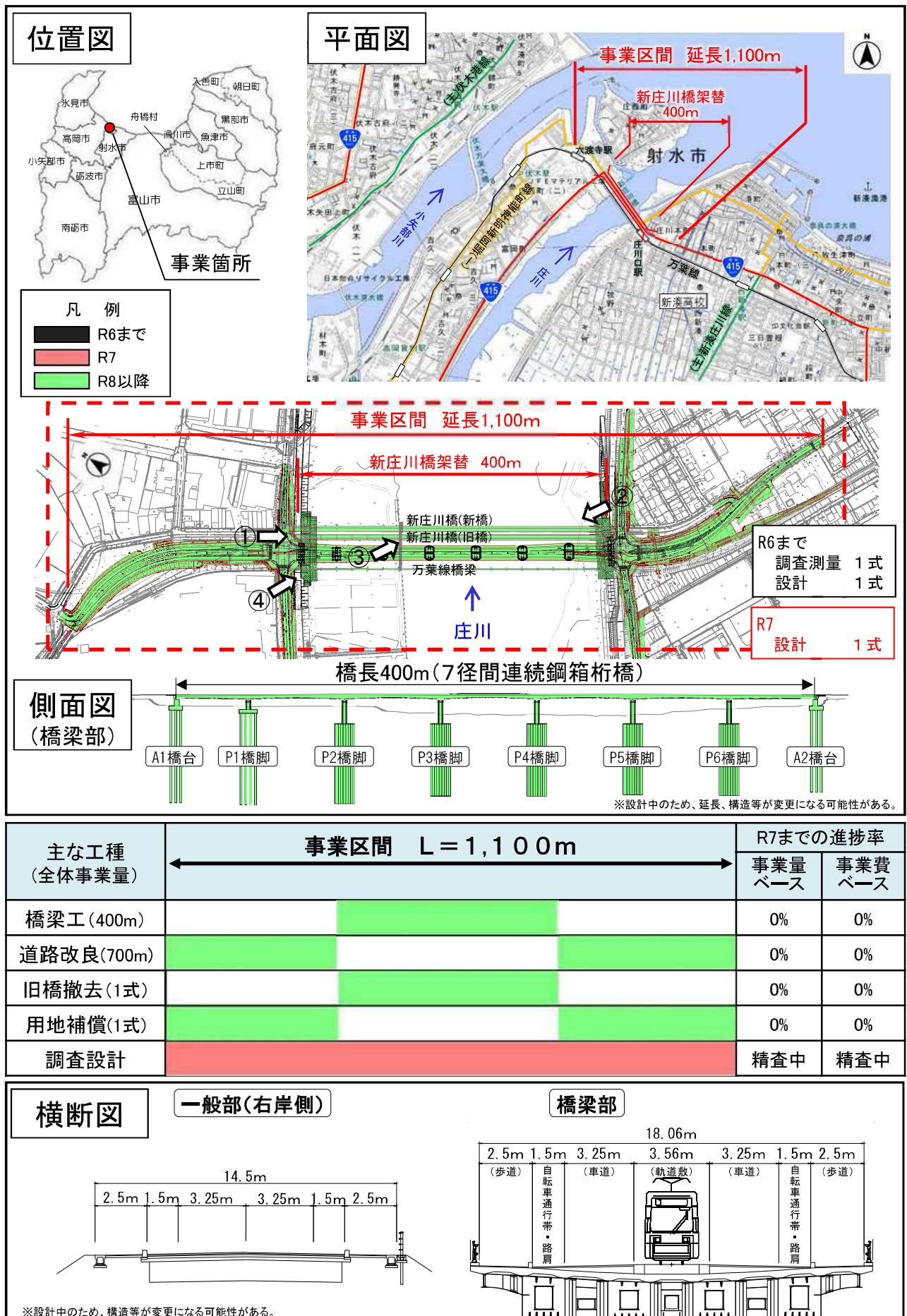
残事業内容および今後の整備見込								
・事業着手以来、調査や設計を進めてきたが、橋脚基礎工や仮設工等において、工事の規模が大きくなる見込みが生じた。 ・このままでは事業を進めることが困難であるため、これまでの設計について、施工の合理化やコスト縮減を図り、事業計画の見直しを実施している。								
自己評価内容								評価結果
・設計や事業計画の見直しを進めること、また、橋の老朽化の対応も検討するため、調査、設計の継続が必要である。								調査の継続、設計の見直しが必要
4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)								
自己評価内容								評価結果
・橋脚基礎工の構造や仮設工の計画の見直しを軸に、検討を進めている。 ・一体橋の計画にあたっては、下記によりランニングコストの低減に努める予定。 高欄、検査路は、メンテナンスフリーで耐久性の高い「アルミ合金製」を採用 照明は、高輝度で長寿命の「LED照明」を採用								調査の継続、設計の見直しが必要

その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など								
・射水市から、道路橋と万葉線橋梁の一体的な架け替え事業の整備促進について要望を受けている。								
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響								
・新庄川橋(旧橋)は特に老朽化が著しく、災害に強く安全な道路交通の確保のため、早急な架け替えが必要である。 ・新庄川橋(旧橋)および隣接する万葉線橋梁が洪水を安全に流下させる上でのボトルネック箇所となっており、早急な架け替えが必要である。								

自己評価内容の総括	
対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続して審議	「1. 事業をめぐる社会経済情勢等の変化」や「2. 事業の投資効果」については、事業継続が妥当と認められるが、工事の規模が大きくなる見込みが生じたことから、設計や事業計画の見直しを進めるため引き続き、調査、設計を継続し、これらの見直し結果が出た段階で、改めて再評価の審議をいただきたい。

9 道路橋りょう改築費 一般国道415号 新庄川橋(射水市庄西町～庄川本町)



整備前の状況

①



②



③



④



⑤



老朽化状況

⑥



⑦



令和7年度富山県公共事業再評価調書

整理番号		事業名			路線名・河川名等			事業箇所		
10		道路橋りょう改築費			シュヨウ チホウドウ トヤマ ウオツ セン イマガワハシ 主要地方道富山魚津線 今川橋			コウライ ミズハシ ツジガドウ 富山市高来～水橋辻ヶ堂		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費 (百万円)	前年度まで 事業費 (百万円)	R7 事業費 (百万円)	残事業費 (百万円)	進捗率	
H28	R12 (R10)	10年	5年	2回目	9,000 (4,000)	3,249	727	5,012	44.2%	

全体計画										
道路改良(橋梁架替) 事業延長:800m 道路改良 延長:455.5m 幅員:15.0m 橋梁架替 延長:344.5m 幅員:11.5m										

事業費の単位は百万円、下段()書きは前回再評価時の数値である

事業概要の説明										
・本路線は、富山市を起点として滑川市を経て魚津市に至る幹線道路で、緊急輸送道路に指定されている重要な路線である。 ・今川橋は、昭和38年の架設から62年が経過し、海岸線から50m程度に位置することもあり、飛来塩分等による劣化が著しく進行している。当該橋梁の架け替えを早急に実施することにより、緊急輸送道路としての機能確保を図る。										

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
富山市の人口 ※富山市HP	人	418,563 (H28.4)	402,386 (R7.5)	減少 (△16,177)
交通量 ※道路交通センサス (県道富山魚津線)	台/日	8,385 (H22)	11,463 (H27)	増加 (+3,078)
混雑度 ※道路交通センサス (県道富山魚津線)	—	0.85 (H22)	1.16 (H27)	増加 (+0.31)

自己評価内容	評価結果
・事業着手時と比較して、富山市人口は減少しているが、交通量及び混雑度は増加している。	事業 継続が 妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考

数値化が困難な事業効果

<

自己評価内容										評価結果
・橋梁の架替えにより、老朽化が改善するとともに耐震性が確保されることから、災害に強い道路ネットワークが形成されることから、事業投資効果は大きい。										事業 継続が 妥当

3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和7年度まで整備済		未整備内容		令和7年度までの進捗率 (%)	
主な工種(単位)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	事業量ベース	事業費ベース
橋梁架替(m)	345	7,674	143	3,175	202	4,499	41.5%	41.4%
道路改良(m)	456	1,079	234	554	222	525	51.3%	51.3%
用地補償(式)	1	247	1	247	0	0	100.0%	100.0%
合計	800	9,000	377	3,976	423	5,024	47.1%	44.2%
残事業内容および今後の整備見込								
・令和6年度までに用地買収・物件補償及び橋梁下部工工事はすべて完了しており、上部工工事に着手している。 ・引き続き、橋梁上部工工事を進めるとともに、道路改良工事を推進していく。								
自己評価内容								評価結果
・当用地買収・物件補償は、すべて完了している。 ・工事については、令和6年度から上部工工事に着手しており、令和7年度も引き続き上部工工事を施工する。 ・以上のことから、事業は順調に進捗している。								事業 継続が 妥当
4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)								
自己評価内容								評価結果
・新橋に設置する高欄をメンテナンスフリーで耐久性の高い「アルミ合金製」を採用することで、ランニングコストの低減に努めている。(約7千万円のコスト縮減)								事業 継続が 妥当

その他の視点

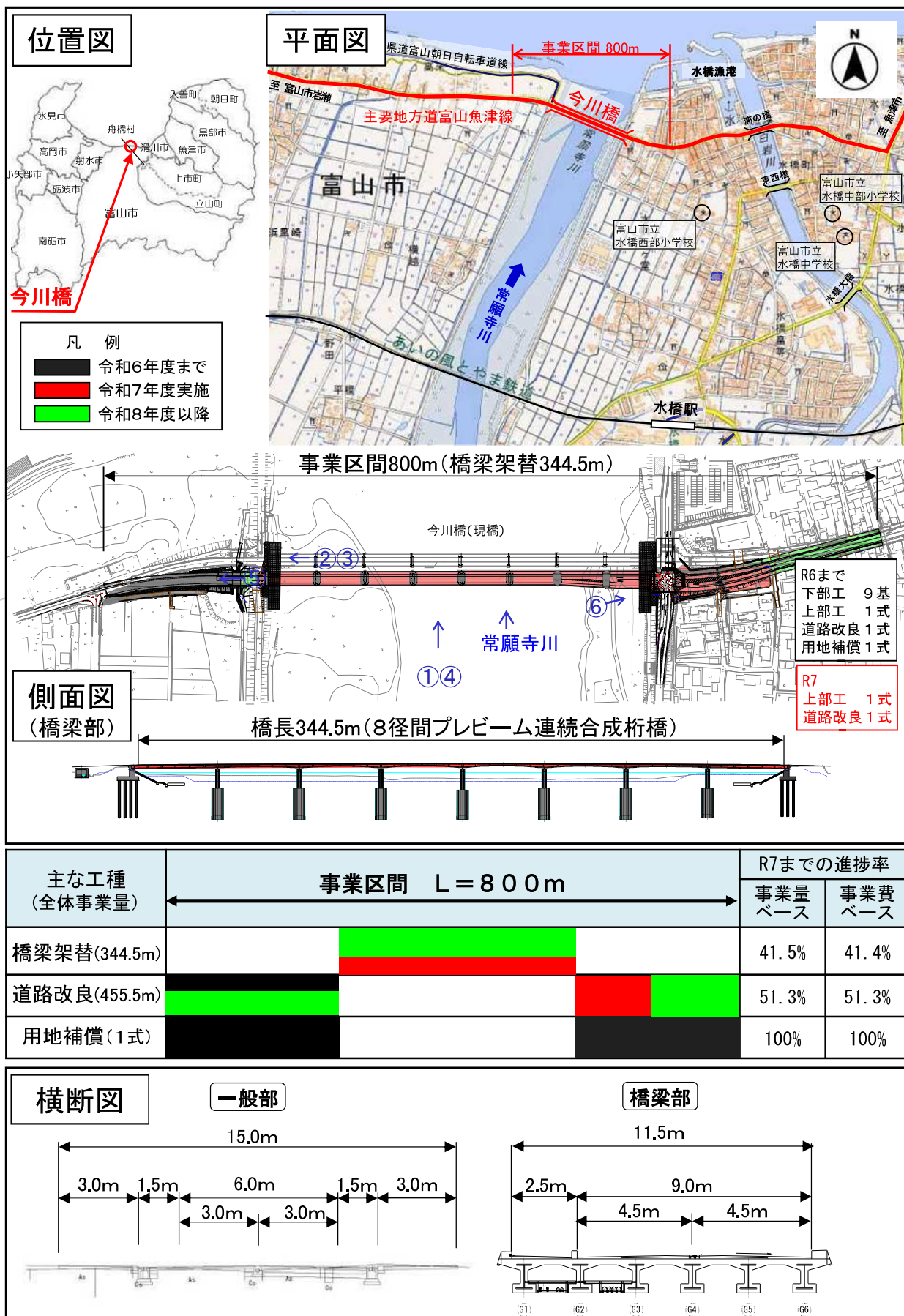
5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など
・富山市、関係自治振興会(浜黒崎、水橋西部の町内会等)及び漁港関係者と事前協議済みであり、地元の協力体制は整っている。
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響
・現橋は架設後62年経過しており、海岸線から50m程度に位置することもあり、飛来塩分等による鉄筋の腐食やコンクリートの剥離といった劣化が進行している。このことから、大規模な修繕工事を実施したとしても長期間の利用は見込めず、早急な架替えが必要である。

自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	・令和6年度までに下部工は完成しており、上部工工事に着手している。災害に強く安全で円滑な交通を確保するためにも事業継続が必要。

様式3-1

10 道路橋りょう改築費 (主)富山魚津線 今川橋(富山市高来～水橋辻ヶ堂)

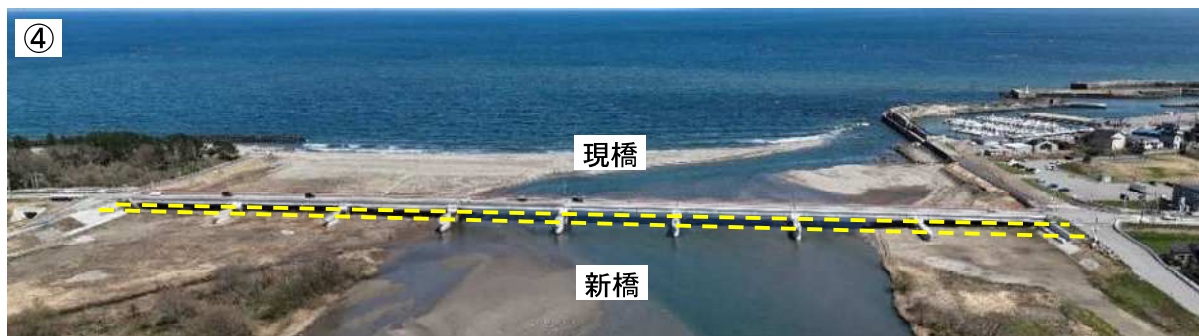


整備前の状況



補修(断面修復)を行っても、数年経過後には新たな損傷(ひび割れ)が発生する状況となっている

現況写真



全景(上流側から望む)

